

研修カリキュラム・シラバス(介護職員初任者研修)

科目	細目	時間数					講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
		計	講義		演習	実習	
			通信	通学			
1	職務の理解	(指導目標) 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。					
	(1) 多様なサービスの理解	3		3			<講義> ・介護保険サービス(居宅、施設) ・介護保険外サービス
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3		3			<講義> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ (視聴覚教材の活用、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等) ・ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 【グループワーク】 事例検討 介護保険サービスを利用し在宅生活を継続する高齢者夫婦
2	介護における尊厳の保持・自立支援	(指導目標) ・介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動等を理解している。 ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。					
	(1) 人権と尊厳を支える介護	5	3.5	1.5			<講義> ・人権と尊厳の保持 ・ICF→3章3節および2巻参照 ・QOL ・ノーマライゼーション ・虐待防止・身体拘束禁止 ・個人の権利を守る制度の概要 【グループワーク】 ・日頃、講師や受講者が身近で感じる偏見や差別について、グループをつくり、思いつく意見を出し合い討議する。 <通信> ・人権と尊厳の保持について ・高齢者虐待防止法について
	(2) 自立に向けた介護	4	4	0			<通信> ・自立支援について ・介護予防の考え方について

3 介護の基本	<p>(指導目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。 ・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。 ・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療、看護との連携の必要性について列挙できる。 ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族と関わる際の留意点についてポイントを列挙できる。 ・生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。 ・介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。 				
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	0	1.5		<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護環境の特徴の理解 ・介護の専門性 ・介護に関わる職種
(2) 介護職の職業倫理	1.5	0	1.5		<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義 ・介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等） ・介護職としての社会的責任 ・プライバシーの保護・尊重 <p>【グループワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの事例に基づき、「自分であれば、どの場面で、どのような対応をしていきたいと思うか」グループ討議を行う。
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1.5	0		<p><通信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全の確保 ・事故予防、安全対策 ・感染症対策について
(4) 介護職の安全	1.5	1.5	0		<p><通信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスマネジメントについて ・腰痛予防、健康管理について
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	<p>(指導目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割、責務についてその概要のポイントを列挙できる。 ・生活全体の支援の中で介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 ・介護保険制度や障害福祉制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。 <p>【例】税が財源の半分であること、利用者負担割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。 ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。 ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる。 				
(1) 介護保険制度	4.5	3	1.5		<p><講義></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・仕組みの基礎的理解 ・制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 <p>【グループワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の意義、目的についてグループ討議にて理解を深める。 <p><通信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度創設の背景及び目的・動向について ・介護保険制度の仕組み基礎的理解
(2) 医療との連携とリハビリテーション	3	3	0		<p><通信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療行為と制度について ・リハビリテーションの理念について
(3) 障害福祉制度およびその他制度	1.5	1.5	0		<p><通信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉制度の理念について ・障害福祉制度の仕組みの基礎的理解 ・個人の権利を守る制度の概要について

<p>5 介護におけるコミュニケーション技術</p>	<p>(指導目標) ・高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとるべき（とるべきでない）行動例を理解している。 ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。 ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。 ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。 ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。</p>				
<p>(1) 介護におけるコミュニケーション</p>	4	1	3		<p><講義> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際 【グループワーク】 ・2～4人のグループになり、話し方や応答、コミュニケーション法を体験する。最後に感想等を発表してもらう。 <通信> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際</p>
<p>(2) 介護におけるチームのコミュニケーション</p>	2	2	0		<p><通信> ・報告・連絡・相談の留意点について理解する ・記録における情報の共有化について理解する</p>
<p>6 老化の理解</p>	<p>(指導目標) ・加齢・老化に伴う変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。 ・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 【例】退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等 ・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。 【例】脳梗塞の場合、突発的に症状が起り、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等</p>				
<p>(1) 老化に伴うこととからだの変化と日常</p>	3	1.5	1.5		<p><講義> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 【グループワーク】 ・加齢、老化に伴う生理的な変化や心身の変化についてグループにて討議する。 <通信> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p>
<p>(2) 高齢者と健康</p>	3	1.5	1.5		<p><講義> ・高齢者の疾病と生活上の留意点 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 【グループワーク】 ・高齢者等の疾病による症状の変化に気づくための留意点についてグループにて討議する。 <通信> ・高齢者の疾病と生活上の留意点 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p>
<p>7 認知症の理解</p>	<p>(指導目標) ・介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解している。 ・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。 ・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。 ・認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。 ・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に若年性認知症の特徴についても列挙できる。 ・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。 ・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。 【例】生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らん場の確保等、地域を含めて生活環境とすること。 ・認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。 ・家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。</p>				
<p>(1) 認知症を取り巻く状況</p>	1	1	0		<p><通信> ・認知症ケアの理念</p>

	(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2.5	1	1.5	/	/	<講義> ・認知症の概念 ・認知症の原因疾患とその病態 ・原因疾患別ケアのポイント ・健康管理 <通信> ・認知症の概念 ・認知症の原因疾患とその病態 ・原因疾患別ケアのポイント ・健康管理
	(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	0.5	1.5	/	/	<講義> ・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の利用者への対応 【グループワーク】 ・バリエーションDVDを視聴し、その後グループにて感想を述べあう <通信> ・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の利用者への対応
	(4) 家族への支援	0.5	0.5	0	/	/	<通信> ・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減（レスパイトケア）
8	障害の理解	(指導目標) ・障害の概念とICF、障害福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。 ・障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。					
	(1) 障害の基礎的理解	1	1	0	/	/	<通信> ・障害の概念とICF ・障害福祉の基本理念
	(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識	1.5	0	1.5	/	/	<講義> ・身体障害 ・知的障害 ・精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） ・その他の心身の機能障害 【グループワーク】 ・構音障害の方の発声の疑似体験をする。（母音のみで会話してみる）
	(3) 家族の心理、かかり支援の理解	0.5	0.5	0	/	/	<通信> ・家族への支援
9	こころとからだのしくみと生活支援技術	(指導目標) ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。					
	I 基本知識の学習	(10～13時間程度)					
	(1) 介護の基本的な考え方	6	0	6	/	/	<講義> ・倫理に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除） ・法的根拠に基づく介護 【グループワーク】 ・各グループの理想的な介護福祉士像を発表する。
	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	0	3	/	/	<講義> ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい

(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	0	3			<講義> ・人体各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識 ボディメカニクスの活用
II 生活支援技術の講義・演習		(50～55時間程度)				
(4) 生活と家事	4	4	0	0		<通信> ・家事と生活の理解 ・家事援助に関する基礎知識と生活支援
(5) 快適な居住環境整備と介護	3	3	0	0		<通信> ・快適な居住環境について ・家庭内に多い事故について
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	0	1.5	4.5		<講義> ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術 【演習】 少人数のグループに分かれての演習実技 ・衣服の着脱の基本的手順(上着、ズボン) ・ベッド上での寝巻の着脱 ※時間内に実技評価を行う
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	12	0	3.5	8.5		<講義> ・移動、移乗に関する基礎知識 ・さまざまな移動、移乗に関する用具とその活用方法 ・利用者、介助者にとって負担の少ない移動、移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 【演習】 少人数のグループに分かれての演習実技 ・ボディメカニクスを活用した動きの基本 ・体位交換 ・車いすの操作方法 ・ベッドから車いすへの移乗 ・歩行の介助 ・視覚障害者の誘導 ※時間内に実技評価を行う
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	0	1.5	4.5		<講義> ・食事に関する基礎知識 ・食事環境の整備、食事に関連した用具、食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ ・楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 【演習】 少人数のグループに分かれての演習実技 ・食事介助(起座位、椅座位)の技法 ・増粘剤の使用方法和体験 ※時間内に評価を行う
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	0	1.5	4.5		<講義> ・入浴、清潔保持に関連した基礎知識 ・さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法 ・楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 【演習】 少人数に分かれての演習実技 ・DVD視聴 ・清拭、部分浴の方法 ・ケリーパッドを使用した洗髪 ※時間内に実技評価を行う
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	0	1.5	4.5		<講義> ・排泄に関する基礎知識 ・さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 【演習】 少人数グループに分かれての演習実技 ・ベッド上でのオムツ交換 ・差し込み便器の活用方法 ※時間内に実技評価を行う

(11) 睡眠に関連したところからのしきみと自立に向けた介護	6	0	2	4.0	<講義> ・睡眠に関する基礎知識 ・さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害するところからの要因の理解と支援方法 【演習】 少人数のグループに分かれての演習実技 ・シーツのたたみ方、コーナーの作り方 ・2人1組でのシーツ交換 ※時間内に実技評価を行う
(12) 死にゆく人に関連したところからのしきみと終末期介護	3	3	0	0	<通信> ・終末期に関する基礎知識とところからのしきみ ・生から死への過程 ・「死」に向き合うところの理解 ・苦痛の少ない死への支援
Ⅲ 生活支援技術演習	(10～12時間程度)				
(13) 介護過程の基礎的理解	6			6	<講義> ・介護過程の目的、意義、展開 ・介護過程とチームアプローチ
(14) 総合生活支援技術演習	6			6	<講義> ・介護過程を展開していくうえでの視点について ・介護過程の構成要素について説明 【演習】 事例による展開 ・生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得 ※時間内に実技評価を行う
10 振り返り	(指導目標) 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。				
(1) 振り返り	3		3		<講義> ・研修を通じて学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づいての要点 【グループワーク】 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことについてグループにて討議する
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1		1		<講義> ・継続的に学ぶべきこと ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージができるような事業所等における実例を紹介 ・介護現場を紹介したDVDの視聴 ・講師の体験談 【グループワーク】 ・上記内容を踏まえて、少人数によるグループディスカッション